



No. 98
2024年
2月18日

日本バプテスト同盟内海部会・瀬戸内海伝道団
委員長：大谷孝志
722-0073
広島県尾道市向島町
16058-22
向島キリスト教会内

巻頭メッセージ

「キリストの証人として」

ヨハネによる福音書12章24〜25節

小豆島バプテスト教会代務者 井上正之師



74歳で召された伊藤静野さんとの出会いです。

二〇二四年は元旦に能登半島を襲った大地震により大変厳しい年明けとなりました。2週間ほど過ぎた今でも被害の全容がつかめていないと報じられています。被災地の方々に主の慰めと平安を心よりお祈りいたします。

ひよんなことから小豆島バプテスト教会の代務者をお引き受けしてから今年で11年が経過しました。その間、教会の方々とは豊かな交わりを与えられてきましたが、昨年は、間接的にはありますが、新たな出会いを与えられるという忘れられない年となりました。一九八六年四月二十日、

その出会いは静野さんの生涯を物語る朗読劇を通じてでした。彼女の生きざまにたいそう感動したある脚本家が時間と労力をかけて作製したものです。もともとは映画化の予定でしたが、コロナ感染等の諸事情により朗読劇として完成しました。朗読劇は静野さんの故郷小豆島と母校日ノ本学園でも上演されました。一人のキリスト者の生涯のよき証の機会となりました。以下に朗読劇に描かれた静野さんの生涯を簡単に紹介します。

川崎教会へ赴任。しかしわずか106日目に結核を患っていた戒三師は死去。悲しみのうちに帰郷しますが、戒三師の友人である奈良バプテスト教会嘉手納牧師の招きに応え、戦時中の厳しい時代に約15年間保育事業に献身。戦後小豆島に帰郷し、母親支援のために公立保育園と教会のベビーセンター開設に奔走し、同時に教会の執事として熱心にその働きを支えその生涯を閉じられました。

実を結ぶ。自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。」(ヨハネによる福音書12・24〜25)

定期総会

二〇二三年四月十六日に向島キリスト教会にて内海部会の定期総会が行われ、代員11名、委任4名、陪席3名で昨年度の活動の振り返りと新年度の計画について話し合いました。

例年四月二十九日に実施していましたが、今年度は尾道みなと祭と重なったため、日程を早めて行われました。

例年の行事に加えて、教会学校教師研修会を対面開催で計画すること、また、慶弔費の支出基準に関する申し合わせを取り決めました。

部会委員の改選が行われ、委員長に大谷孝志師、委員に綿谷剛兄(会計)、石塚多美子師(書記)、トゥン・カン・クップ師、山根幹枝師、水戸川佳子師が選出されました。(向島 綿谷剛)

部会行事報告

女性会

内海部会女性会の働き

女性会長 水戸川佳子

内海部会の皆さま、全国の福音丸の活動を支えてくださっている方々、主の御名を賛美します。

何度か内海部会女性会長として執筆させていただいています。内海部会女性会は大きな変化を求められています。内海部会では、私の所属する向島キリスト教会、広島平和教会、瀬戸田バプテスト教会の3つで2年ずつ当番をしてきましたが、二〇二四年からやり方を変えようと考えています。

来年からの内海部会女性会としての形を決めるために、一月に各教会が参加してZoom（ズーム）で話し合うことになりました。各教会には事前にメールでアンケートに協力していただき、それを元にして話し合っていく予



定です。この原稿が皆さんの手元に届くときには女性会の新しい形を見ることのできるでしょう。

コロナ禍で取り入れたZoomがこうして今、なくてはならないものとなって私たちを繋いでくれることを主に感謝します。



女性会総会

また、全国女性会ではアジア学院を支援しています。アジア学院では、東南アジアなどの国から来た留学生が農業のスキルを身につけて国に帰り、リーダーとして活躍します。その方たちともZoomで繋がることができました。願っております。

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」（ピリピ 4・6）

教師会

教師会幹事 中川純良

四月に教師認定された中川が、四月九日に行われた第一回教師会において幹事に任せられました。教師会活動については、右も左も分からない若輩者ですので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。なお、会計はクップ先生が担当していただけることになりました。

第二回教師会は、七月二日に内海部会委員会の後に行われました。教師会について明るくない中川のために、教師会の目的・活動に関して自由に討論していただきました。その結果、以下の通り、教師会についてある程度のコセンサスを得ることができました。

一、教師会の目的は、教師相互の交わりと研修の場であること。

二、教師会では、メッセージがあった方がよい。

なお、第三回目の教師会を、十月九日に予定していましたが、関西部会との合同教師会のお誘いがあったため（十月二日）、こちらに合流することとし、第三回目の教師会は延期させていただきました。新幹事の中川が、平日の活動が難しいこと、毎週の礼拝準備に追われ接手礼会議の準備もなかなか進まない状況の中、教師会の活動まで手が回らない現状です。これからの教師会活動のためにお祈りに覚えていただければ幸いです。

講壇交換

内海部会では年に一度講壇交換を行っています。二〇二三年は六月十一日に行いました。

【小豆島バプテスト教会】

大谷孝志（向島）

向島から車で福山から岡山まで山陽自動車道を通って、岡山新港からフェリーに乗り小豆島の土庄港に尽きました。教会員の方を迎えに来て頂き、久しぶりに礼拝奉仕をさせて頂きました。

礼拝には、小豆島町の中山棚田保全推進員の青年が奥様とお子さんを含め8名の出席でした。若いご夫妻は将来転入会を希望しておられると伺い、主の小豆島教会への深い愛と恵みを知らされ、感謝でした。後日談になりますが二〇二四年の部会新年礼拝において、三月に転入会されるとの報告を聞き、これもまた感謝でした。礼拝後は手作りの昼食を美味しく頂き、帰りもお送り頂いて、小豆島の観光もさせて頂きました。たくさんのお恵みを頂き、小豆島を離れました。



講壇交換：小豆島・大谷孝志師

【向島キリスト教会】

井上正之(日ノ本)

小豆島バプテスト教会の代務者として今回も内海部会の講壇交換に参加させて頂きました。今年は昨年と違い台風の襲来もなく、またコロナ感染



講壇交換：向島・井上正之師

もやや落ち着いてきたお陰で、ご奉仕させて頂いた向島キリスト教会の皆さんとはゆったりとした交わりの時を持つことができました。礼拝の賛美は本当に素晴らしく、皆さんの信仰生活の喜びがよく表されていると感動させられました。また当日は宮古島の教会の方々が5名ほど出席されていてとても豊かな礼拝と交わりの時をいただきました。

外の駐車場でもいろいろ話が弾み、なかなかお別れができないほどでした。その後も、近くの中華料理店で昼食をごちそうになり、そこでも楽しい話の時間をいただきました。

旅情あふれる尾道から渡船と徒歩で15分くらいの場所に立つ明るく開放的な教会。またお訪ねしたいと思わされました。たくさんのお恵みをありがとうございます。

【土生バプテスト教会】

山田三千江(瀬戸田)

三月にバプテスト神学校を卒業し、四月瀬戸田バプテスト教会に転入致しました。とはいえ諸事情により、横浜の自宅から年に数回瀬戸田に通う予定です。

今回は先に瀬戸田教会の牧師館に泊めて頂き、多美子先生の原集会所や大三島の祈りのテラスでの働きを同行させて頂きました。講壇交換では、私は土生教会で奉仕させて頂くことになり、朝はこども園の先生に車で迎えに来て頂き、色々と内海のことをお話下さり案内して頂いたため、安心致しました。

土生教会では、教会暦からマルコによる福音書1・29〜31のシモンのしゅうとめのお話から「仕えること」という題でお話させて頂きました。神学校を卒業したばかりの者が奉仕をするのでいつもと違った感じがしたのだろうと思います。皆さん温かく説教に耳を傾けて下さったので本当に感謝でした。礼拝後、因島のおいしいお菓子を頂き、福山行のバスに乗って、観光客のように景色を楽しみ、新幹線で横浜に戻りました。これからも内海部会の皆様との交わりを楽しみにしています。

【瀬戸田バプテスト教会】

林原 弘(土生)

説教「いのちの水の泉から飲ませよう」 ヨハネ黙示録 21・1〜8

瀬戸田バプテスト教会では伊澤夫人が天に召され、ご遺族を覚えて祈り、土生バプテスト教会でも、二月二十一日(火) 林原潔氏(弘牧師の弟)、三月十七日(金) 田中良子召天、十九日(日) 葬儀(3:00 典礼会館)を覚えて、人生の終わりについて共に考え祈りをしました。



講壇交換：瀬戸田・林原弘師

【中島集会所】

中川純良(瀬戸田・安下庄)

去る六月十一日、内海部会の講壇交換のため中島集会所で礼拝を守ることになった私は、自宅のある岩国市から、車と2つのフェリー航路を乗り継いで、往復13時間の道のりをたどりました。礼拝は12時半開始で



講壇交換：中島・中川師

したので、11時半に中島の大浦港に到着し集会所へは約10分で到着いたしました。事前に聞かされていた方法で鍵を開け、窓を全開にして風通しをしながら礼拝開始の時まで黙禱の時を持たせていただきました。

礼拝は、定刻より少し遅れて開始しましたが、私を含めて4名の出席で、「Pat」に用意してきたピアノの音源を頼りに、前奏、賛美を献げ、御言葉に耳を傾けることができました。人口約二千人の島の集会所で、月に2度の礼拝を最善を尽くして守っておられる出席者の方々に、主のなされる御業を覚え、深く主に感謝いたします。

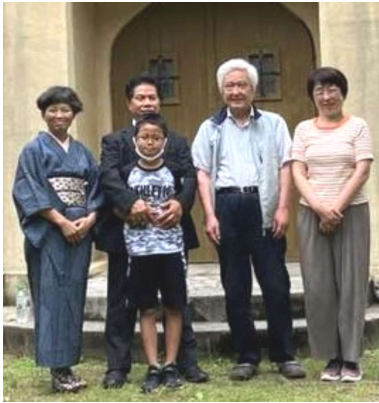
願わくは、このような礼拝の機会を通して、より多くの、まだ見ぬ姉妹兄弟たちをこの礼拝に送ってくださいよう、主なる神様に願い祈ります。どうか、この中島集会所を覚えて、祈ってくださいよう、切にお願いいたします。

【安下庄集會】

トウン・カン・クップ(広島)

主の御名をほめたたえます。今年も無事に内海部会の講壇交換が出来たことを主に感謝します。私は、瀬戸田バプテスト教会安下庄集會へ行きました。

釣りが大好きな息子二人も連れて行きました。釣りが出来ると思っていたからです。行く時は中川このみさんとお宅の家の近くのバス停で待ち合わせ、教会まで案内して頂きました。途中で次男カンカンが車に酔い、吐いてしまい、中川姉に助けられました。本当に優しい方です。集會では現地の方二人が参加され、6名で礼拝を守ることが出来ました。その中の山口さんは地域の為に色々な働きをされた方で、ミッションマーのことも色々な話が出来ました。帰り、魚を釣れる場へ連れて下さり、釣り具の準備の仕方を教えながら手伝って下さいました。二人の息子は釣りが出来るとても喜んでいました。釣れた魚の中の一匹は毒を持つ魚であったことを知らなかったため、触つたら



講壇交換：安下庄・クップ師

魚のとげに刺され、しばらく動けないほど痛かったです。このような経験も出来ましたが、中川先生ご夫妻が一生懸命、主のために働いていることを感じたので、安心し、喜びながら帰って来ました。主に感謝します。

【広島平和キリスト教会】

石塚多美子(瀬戸田)

広島平和キリスト教会は、普段は、第一礼拝と第二礼拝に分かれて礼拝していますが、講壇交換などの時は、合同礼拝として捧げます。夏期レクレーションなどの際に、ご家族みんなで参加されていた方々が多い印象でしたが、この日の礼拝も、家族での参加で賑わいました。一大家族が、子どもが多いのでその家族が来れば6人、7人となるので、活気がありました。また、中学生になったクップ師の長女のはなちゃん、前奏など、奏樂の奉仕もしました。礼拝の子ども向けメッセージ



講壇交換：広島平和・石塚多美子師

ジもありました。日本語が分からない方のために、クップ師は、英語の翻訳原稿も準備されているそうです。礼拝後は、自己紹介を兼ねて、それぞれが力を受ける聖句や聖書の話、好きな人物などを分かち合う楽しい交わりの時もありました。クリスチャンであるお母さんが、まだ救いの確信がないご主人や子どもたちを力強く誘って一緒に礼拝することを何よりも大切に行っている姿勢にも感銘を受けました。励ましと希望を受けて帰路に着きました。

信徒研修会

二〇二三年二月二十三日、「信徒研修会」がリモートで開催されました。講師は、淀川キリスト教病院チャプレンの藤井理恵先生で、「たましいの安らぎ」と題して、具体的にチャプレンとしてお一人お一人に寄り添い、過ごされた出来事からお話下さいました。多くの示唆をいただき、恵まれた会となりました。参加者は、4教会24名で参加者お二人の感想を6頁に掲載します。(瀬戸田・石塚多美子)



信徒研修会：藤井理恵先生

秋のレクレーション

二〇二三年九月十八日(月・祝)内海部会秋のレクレーションが東広島市憩いの森公園にて開催されました。広島平和キリスト教会から9名、向島キリスト教会から7名、瀬戸田バプテスト教会から1名で、17名が集いました。始めに開会礼拝で、トウン・カン・クツプ牧師が、ヨハネによる福音書14・6の御言葉から、イエスさまというまことの神、救い主を信じる人は、罪赦されて救われる、そういう人が恵まれているのですとまっすぐに福音を届けられました。クップ先生作詞・作曲の賛美と合わせて、力強いメッセージが心に届きました。その後、雨が少なかつ



秋のレクレーション クップ師メッセージ



秋のレクレーション 散策

たからなのか、溪流広場にはほとんど水がなく、水遊びは出来そうになかった。子どもも大人も一緒に林の中の道を散策しました。みんな、汗びっしょりでした。お昼は、それぞれ持ち寄ったお弁当に、広島平和キリスト教会で準備して下さったフルーツ盛りが加えられ、とても、豊かなランチタイムとなりました。午後の分かち合いでは、綿谷則子さんが、とこちゃんだけではなく、紙コップで作ったコップくんも用いて、楽しく、そして、信仰的な腹話術での対話をしてくださいました。その他にも、向島キリスト教会のみなさんが、聖書や個人的なことも含めて、楽しいクイズタイムで、交わりを盛り上げてくださいました。自由時間では、子どもたちは遊具のある広場



で思い切り楽しんでいましたが、通り雨が降り、少し早めに集合、閉会礼拝となりました。ヨハネによる福音書15・16、17の御言葉より、大谷孝志牧師が、今、私たちは神さまに選ばれ、神さまのみこころで、それぞれの場所で生かされていること、それは、神さまがそこで豊かな実りを結ぶことを望んでおられることを心に覚えて、喜びをもって歩んで行きましょうと励ましに満ちた、派遣のメッセージをしてくださいました。



齊藤隆二師

今年度は、二〇二三年十一月三日に吉備聖約キリスト教会牧師の齊藤隆二師を講師として、教会学校研修会を開くことができ、神さまに感謝しています。Zoom配信も行いましたので、部会を超えて参加して下さった方もいました。

テーマは、「若者たちのいるところ」です。齊藤師は、マルコによる福音書10・13〜16の聖書箇所をベースとして、丁寧に語りかけてくださいました。教会の絶大なる魅力は、愛の神さまからの祝福があること、何よりも、主イエスさまがいるところであり、その主イエスさまが一人一人を招いてくださる

教会学校教師研修会

間となりました。ただ、秋のレクレーション、というには、まだ真夏の気温、来年度からは、十月か十一月に開催しようねと、みなさん口々に話されていました。確かに、焼き芋を食べたい気持ちよりも、アイスを食べたい陽気でしたから……。

(瀬戸田・石塚多美子)

ことを忘れてはいけないことを気づかされました。教会は誰のための居場所なのか？教会を自分のものと思っていれば、そこは、若者の場所ではなくなるのです。自分のためでもあるが、すべての人のためでもあるのです。愛を原動力として、イエスさまと人々との邪魔をしないこと。何よりも、自分の心にイエスさまがいることを喜ぶことが大切であることを、改めて示されました。7頁より、参加者からの感想を掲載していますので、ご覧下さい。21名の参加でした。

(瀬戸田 石塚多美子)

新年礼拝

今年は、広島平和キリスト教会を会場として久しぶりに対面で行おうとしましたが、インフルエンザの影響もあり、急遽リモートでの礼拝としました。小豆島、向島、瀬戸田、広島、安下庄の各地から16名の参加でした。開会の祈りの後、二〇二三年度内海部会主題聖句テモテII 4・2の賛美(カップ師作曲)をささげました。メッセージは、トウンカンクップ牧師で、ヨシユア記 1・9、マタイ6・25〜29等から、皆さまの御言葉を語ってくださいました。「現在の状況は聖書が証している終末の時といってもいいでしょう。その中で、私たちはもつと神さまを信じて、福音を宣べ伝えていく使命があります。主イエスさまは、マタイ9・37〜38で

おっしゃいました。『収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださいるように、収穫の主に願いなさい。』と。神さまはヨシユアに語ったように、私たちにも語りかけてくださっています。主がともに入れてくださることを信じ、恐れずに、伝道に励む私たちでありますようにと願います。」

礼拝の後、内海部会委員長大谷孝志牧師の司会で、各教会と個人からの分かち合いをしました。また、時間もたっぷりあったので、一人一人が心に大切にとどめている聖句を分かち合うことも出来ました。青年時代に出会った聖句、困難な折々に支えられて来た聖句、バプテスマの時の聖句、自分自身の生活を見直させられる聖句、葬儀の時に



2024年 新年礼拝 リモート集会

読んで欲しい聖句、召命を受けた時の聖句など、それぞれの霊的な部分を支えている神さまの御言葉をたくさん共有できて、恵まれた時となりました。大谷師の閉会祈禱で部会新年礼拝が終りました。

(瀬戸田 石塚多美子)



信徒研修会に参加して

瀬戸田バプテスマ教会・久保敏子

「たましいの安らぎ〜病院チャプレンの働きを通して」と題して、淀川キリスト教病院のチャプレン藤井理恵師より講演を頂きました。私の娘が同じく淀川キリスト教病院のチャプレン室にて藤井先生のもと、温かいご指導を頂きながら共に働かせていただいております。以前より、先生のお働きについて伺っていたのです。講師の依頼を快く受諾してくださったとの事で、お目にかかれる日を楽しみに、心待ちにしていたのですが、コロナがまだ収まらず、各教会をつないだリモートでの講演となりました。

先生は、双子でいらして、体型は小さくていらつしやるのですが、病院内では、「小さな巨人」と言われる程、深くて大きなお心で患者さんや職場の皆様、先生と出逢われたたくさんの方々に包み込んで下さり、又、北風が吹いた時には、身を呈して立ちはだかつて下さる、まさに、巨人の様な方だと聞いておりました。リモートの画面を通してではありましたが、その穏やかで温かく、にこやかなお姿に久しぶりに出逢えて本当に嬉しく思いました。

嘘やごまかしのきかない命の最前線に何時も立ち合わせ、全人医療を理念とするキリスト教病院で、身体の痛みに伴う魂の痛みに寄り添って歩まれている様子を様々な方々の尊い事例を通してお話をして下さいました。私達の周りにも身体の痛みや、又、家族の出来事等魂の痛みを覚えている方が多く居られます。痛む人々に寄り添い生きる事は、神様の愛なくしては、とても難しい事だと思いました。自分が先立つのでも無く、後を置いて行くのでも無く、痛みを覚える方に寄り添う事は、十字架で命を捧げて下さる程の神様の愛、神は愛なりの聖言葉に生きる事だと、改めて学ばせて頂きました。

全き愛で寄り添い生きて下さる神様を何時も悲しませる自我のかたまりの私ですが、日々、自我に死に、愛に生きたいと祈り願う者です。

研修会に参加して

広島平和キリスト教会 山根幹枝

藤井理恵先生の講演を聞くことができ、感謝でした。

病の中にいる姉妹とのことでどう接するべきなのか悩んでいる時に友人が藤井理恵先生の本を送って下さいました。

本を読みながら、いろいろと考えさせられ、もし、お話を聞くことができたらと思います。たまたまそういう機会が与えられて、お話を聞くことができました。

病の中の友人とかかわりながら、自分の無力感を感じていました。寄り添うとは何だろうか、よくわかりませ



信徒研修会 藤井理恵先生

んでした。言葉では励まそうとしたり、その場を取り繕うことばかりしていたように思います。

理恵先生のお話を聞いて、無言の間も大切に、相手の言葉、沈黙に耳を傾けることの大切さを教わりました。昨年の七月に友人は神様の身元に旅立たれました。いろいろと後悔もありましたが、気づきや恵みを与えられました。

友人との出会い、人とのつながりや、理恵先生のお話を聞くことができ、神様の導きに感謝でした。

教会学校 教師研修会に

参加して

小豆島バプテスト教会 庫本由美子

大谷先生の教会学校研修会へのお誘いの電話に、「教会学校は、していませんから」と即座にお断りしたのですが、「テーマは若者たちのいるところですよ」のお言葉に心が動き、午前中のお話だけでも参加してみようと思いました。

十一月三日は、リモート。うまく繋がるかとドキドキ。どうにか繋がりホッ！時間になると、画面には楽器を持った人達が並び賛美の歌。その後には斉藤隆二牧師（吉備聖約キリスト教会）のお話がありました。声が少し聞きづらかったですが、お話には、ドキッとすること

とが多くありました。『教会の財宝は神の愛である。私達の心がイエス様で満たされて喜んでいられるのなら、教会に来た人はいいなあと思うだろう』『教会は誰の居場所だろうか？私だけの居場所ではない。新しい人の言ってくれる言葉はいろいろな気づきをくれる。』『教会をイエス様のいる所にしましょう。』

などと語られました。

若い人が来てくれない、高齢者しかないから無理とばかり言わないで、イエス様がそばにいてくださることを一人ひとりが喜んでいれば、きっと教会に人が集まってくるのだと、自分の信仰を見直す機会になりました。この会に参加できましたことを感謝します。

向島キリスト教会 三阪直子

主の御名を讚美致します。

二〇二三年十一月三日（祝）に内海部会合同での教会学校教師会として、吉備聖約教会牧師の斉藤隆二先生を迎え、久しぶりの対面での学びの時を与えられたことに感謝します。

斉藤先生の話の中で一番心に残ったことは、まずは朝起きて一番に神様にチャンネルを合わせることが大事だということ。自分の信仰生活を振り返ってみると、全く神様にチャンネルを合わせることができていないことに気がつかせられました。

また、午後からは4名の青年との交わりの時、そして讚美の時を持つこと



教会学校教師研修会（向島）

ができ、感謝です。なかなか、自分の子ども達に近い若者との関わりが教会内でも持てておらず、今の若者の声を生で聞くこともできて、これもまた感謝。

日々、いろんなことで悩んだり、失敗もよくするけれど、すべてを神様に任せ、これからもクリスチャン生活を楽しく歩んで行きたいと思えます。

瀬戸田バプテスト教会 久保敏子

内海部会研修会で「若者たちのいるところ」と題して、吉備聖約キリスト教会より斉藤隆二牧師を講師としてお招きし、「教会学校研修会」の学びの時を持ちました。広島平和キリスト教会、向島キリスト教会、瀬戸田バプテ



教会学校教師研修会（向島）

スト教会より20数名が集いました。内海部会それぞれの小教会において共通する課題として、教会の高齢化が進み、教会に若者が居ない、というのが現状です。どうすれば、教会に若い方を招く事が出来るのでしょうか？という課題は、切実なものです。しかし、斉藤牧師は、開口一番、「私にも全くわかりません。答えが無いのです!!」と言われましたが、4人の若いクリスチャンの女性たちが牧師と共に来て下さっていました。スーツにネクタイでは無くて、ラフなスタイルで、明るく笑顔で、「私も答えは有りませんので、皆さん共に考えて見ましよう。」といわれました。昼食をはさんでの研修会でしたが、昼食後、斉藤牧師と共に来てくださった若いクリスチャン女性の方達がお一人ずつどのようにして教会に導かれてクリスチャンに成られたの

か証して下さいました。神様と出逢う過程はそれぞれ異なっていますが、皆さん、背のびせず、素直に自分の言葉で神様との出逢いや教会生活の様子を話して下さいましたのが、とても印象に残っています。日常の生活の中に寄り添い歩んで下さっておられる、生きておられる神様の人肌のぬくもりを感じることが出来ました。その後、それぞれの教会の方々もお一人ずつ教会生活で抱く課題等、活発に発言され、早速に若い方達よりエネルギーを頂いたと思える充実した集いと成りました。若者の有りのままを温かく受け入れ、受け止め、共に考えながら、教会のあたりまえを今一度顧みて、新たなビジョンを開拓し、さらに福音をのべ伝える伝道の姿勢に、力強い明るい希望を感じる事ができ、感謝でした。

「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言っておく。子供のようには神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることは出来ない。」

（ルカによる福音書18・16、17）

広島平和キリスト教会

マンシヤン・ディム

行く前は教会学校のお話だというので、紙芝居や絵本の読み方について習うのかなと思ったのですが、違っていました。でも研修会の中で、みんなと一緒に賛美できて感動しました。

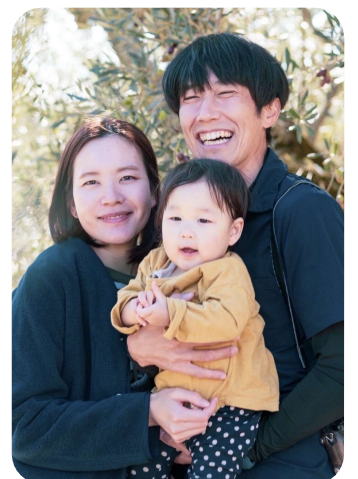
吉備聖約キリスト教会から4人の青年の皆さんに来ていただき、とても嬉しかったです。教会にたくさんの方がいるのは、日本ではとても珍しいことだと思えます。どうやって若い人を育てているのかとても興味があるし、その方法をもっと知りたいです。機会があれば、吉備聖約キリスト教会に行ってみたいです。

教会が「私の居場所」だと、どなたにも感じてもらえるようになることが大切なのだ、お話を聞いて思いました。

証し・分かち合い

【証し】長棟あつき(小豆島)

大阪府から小豆島へ移住してこの一月で1年と10ヶ月が経ちました。大阪では夫の友人の父が牧会をしている単立の教会へ夫婦共に通っていました。移住当初はまだ通う教会が決まっておらず、小豆島にある教会をひとつずつまわって礼拝に出席していました。コロナ禍だったため礼拝を休止しているところもあったようなのですが、人口の少ない田舎の島で普段から運営されている教会がどのくらいあるのかネットでは情報が得にくく、毎日のように神様に祈りながら探していくうちに導かれたのが小豆島バプテスト教会でした。初めて礼拝に出席した日、素晴ら



しい歴史のある建物に入ると教会員の皆さんがあたたかい笑顔で優しく迎えてくださったことを今でも覚えています。小豆島バプテスト教会は無牧のため毎週の礼拝説教はテープで聴き、教会員は高齢の方が多いためながらも協力し合って教会運営をしており、はじめに私自身が感じたようにあたたかい雰囲気がとても心地よい教会です。そんな教会で30代の私たち夫婦が何かできることがあるのかまだ分かりませんが、祈るなかで神様から任せなさいと言われていたような気がして、私たちは小豆島バプテスト教会へ通うことに決心しました。移住した時は妊娠中だったので、今では一歳になった娘も立派に教会のメンバーのひとりとして礼拝で一番大きな声で(もちろん喃語ですが)賛美を歌って教会を盛り上げてくれています。三月には転会式と幼児祝福式をしていただく予定です。この先、小豆島に定住して教会に家族みんなで仕えていくことができるようにお祈りくだされば幸いです。

証し・分かち合い

【証し】高垣タマリズ(向島)



私自身のことを少しお話します。喜んで話させていただけます。私は母親がカトリック教徒、父親が福音主義者だった家庭で育ちました。時々私たちはカトリック教会に行きましたが、私の両親は偶像がある教会にいたことは正しいことではないと思っただけで、福音派の教会を探すことにしました。バスに乗って最初に見た教会、アグアスカリエンテス市の中心部から、ディサイプルスオブキリストという福音派の教会に行きました。この教会は、米国からの福音派宣教師によって設立された教会でした。その日、私の両親は教会に入り、牧師夫妻に親切に迎えられました。それ以来、私たち家族の生活は変わり、幼少期、青年期、青春時代を兄弟として教会で過ごし、それぞれが結婚した後、家族を形成しました。そして彼らは今も主の道を歩んでいます。私には宣教に専念している二人の兄弟がいます。私は教会に通い、日曜学校に参加していましたが、まだイエ

スを救い主として受け入れていませんでした。そのため、14歳のある日、十代の若者たちの集会で、教会の牧師が悔い改めについて語り、悔い改めの時が来たと言いました。神のために心から祈りました。あの日、私は神が私に語り掛けられたのを感じ、その瞬間にそれを受け取りました。洗礼を受けてすぐに、私は教会で子供たちのクラスを教えながら、できる限り神に仕えました。会堂の掃除の奉仕を頼まれ、進んでしました。私の両親も教会の活動に参加してくれました。私は教会で暮らしたすべての楽しい瞬間を決して忘れません。私は決してそれらを変えるつもりはありません。

私は幼い頃から、全知全能の神が存在するということを常に心に留めて生きてきたと思います。神の存在を疑ったことは一度もありませんし、それは決して変わらないものです。私はこれまでずっと幸せでしたが、人生のすべてが幸せだったわけではありません。悲しい瞬間、もうこのような重荷を背負うことができなくなった瞬間、孤独と苦しみの瞬間もありました。でも、神はいつも私とともにいて、決して私を離れることはないということを思い出させてくれました。神の言葉は私の魂にとって香油のようなもので、神は私をとて憐れんでくださいました。

職場や学校でも私をからかう人もいましたが、そのことで私はキリストにある信念を恥じることはありませんでした。私は両親が私たちに主の道に導くことができたこと、そして今結婚していることを常に神に感謝しています。が、教会への姿勢をもう少し前進させたいと思っています。言葉は私にとつて非常に難しく、彼の気持ちをうまく理解し得ないところがありますが、彼は今の状態を心の中では喜んでいますが、主とより深いつながりを持つことができるように神に祈っています。

2年前、私たちは家族として困難な状況を経験しました。父は前立腺がんと診断されました。しかし、神に感謝します。神が御心を行って下さいました。更に、私の妹の夫が亡くなりました。そして母は脳の病気で診断されました。まだ回復中です。旅行はできませんでしたが、私たち家族は、神を信じ、すべてを神の御手に委ねなければなりません。そして、それによって、神が私たちを顧みてくださるのを見ることができました。私たちは家族としてこのようなことを経験したことがありませんでしたが、それは神がすべてをコントロールしておられるという証しでした。

年末のメキシコ旅行は私にとつても楽しかったです。なぜなら、私たちの家族全員で集まることができたからです。兄弟たちと会え、私たちがやりたかったこと、夫と私が旅行できた

ことを神に感謝します。神はいつも信実です。

また、私が日本に来て以来、私にとつて祝福となってくれたこの教会にも感謝しなければなりません。私たちはいつも皆さんに大きな愛情をもって迎えられる、異なる文化を持っているにもかかわらず、イエスにおいて私たちが常に一つになれたからです。私たちに對する皆様の忍耐と努力に、そして皆様の愛に感謝します。この教会に居場所を与えてくださった牧師たちに、神に感謝します。神が常に彼らの必要を満たし、常に彼らを祝福してくださいますように。

最後に言いたいのですが、私たちは夫、妻、息子、そして家族のために祈りをやめてはなりません。今日、私たちはマタイ24章に記されている産みの苦しみにますます近づいており、戦争、暴力で社会はますます衰退し、人々は互いに争い、背教など、想像し得る限りのことが世界に起きています。キリスト教の教会自身が、この地球の悲痛な叫びに心を向けましょう。自然破壊、地震、気候変動がたくさんあります、今こそ私たちが神から距離を置いたり、人々を道に迷わせたりすべきではありません、敵は私たちが敗北するのを見たいと思っていますが、私たちはどんな状況でも 私たちの味方である神がいます。いつも私たちに助けてくれるでしょう。いつもあなたに神のご加護がありますように。



【証し】川口照栄(向島)

こんにちは、川口照栄です。牧師家庭で育ち小学6年生の時に洗礼を受けました。

現在は尾道市立大学の4年生で大学では美術の勉強をしています。

大学一年の頃はコロナに被っていたので実家の岡山から大学に通っていました。二年から尾道で一人暮らしを始めて向島教会へ通い始めました。

最初はちまちま通っていました。しかし実家と比べると教会までの距離が遠く、行くのが面倒臭くなってしまい段々教会へ通う頻度が減っていききました。

父が「教会へ通わなくなると、その生活にすぐ慣れてしまう」と言っていたのですが、本当にその通りになり日曜日に教会へ行かない生活にすぐ慣れてしまいました。生まれた時からほとんど毎週教会へ通っていた自分がこうなるとは思いませんでした。この状況はまずいなと思いつつもなかなか教会へ通えない日々が続きました。そして三年になってから当時付き合っていた彼女に振られてしまいました。その時にもう教会いいや!と思いは

んど教会へ行かなくなってしまいました。そしてザ・大学生の生活をしていると三年の三月末に、自分が見て見ぬふりをしてきた罪に気付かされる機会がありました。例えると、万引きをしてしまったが店員に見つからず意外と大丈夫なのかと勘違いしてしまい万引きを続けていたらある日、店員に見つかってしまった感じでした。

気付かされた罪が自分の力ではもうどうにも出来ないことだったので神様に祈りまくりました。しかし、どうすれば良いのか正解がわからずめっちゃな祈りを続けていました。

そして大学四年の四月初めに祈りが聞かれました。この時に自分の気付きたくもない愚かさや、それをも赦して愛してくださる神様の愛を実感しました。自分も神様の為に生きたいと思えました。

それからまた向島教会に通い始め、今まで参加していなかったKGKというクリスチャンの学生が集まる会にも参加し始めました。神様のおかげで教会のイベントに積極的に参加できるようになりました。

この一年辛いこともありましたが、自分の罪に気づかせてくれた神様にとっても感謝しています。

思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。

自分の肉に蒔く者は、肉からの滅び

を刈り取り、御霊に蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。

(ガラテア6・7、8)

これからは自分の肉ではなく御霊に蒔いていきたいと思えます。

キリスト教教誨師に委嘱されて

大谷孝志(向島)

岡山伝道所牧師時代の市の教役者会で、教誨師を下さる方はいませんかとの発言があり、以前から興味を持っていた私は、したいですと申し出ました。先輩の教誨師の同行者として岡山刑務所に行き、その働きを見学させて頂きました。半年程して委嘱状を頂き、正式に教誨師になりました。岡山刑務所は収容人数も多く、約80名程の方々が毎月、集合教誨に出席しました。プロスタント教誨師は私を入れて4名で、交代でメッセージをしました。国の機関で福音を堂々と語れるのです。そして皆さんも一緒に讃美歌を歌い、牧師達の話に耳を傾けていました。それとは別に各人が、一室で刑務官同席



の上で、個人的に指導する個人教誨をしていました。希望者には個人教誨の場が与えられるからです。私も五年間で3人の方に個人教誨をしました。殺人や児童への性的暴行で無期、長期刑で収容されている人達ですが、人として正しく生き直したいという気持ちを感じられる人達でした。聖書の言葉を分かりやすく彼らに教えました。

素晴らしいことに、個人教誨を受ける方々の中から、主イエス様を信じて救われたいと希望する方が度々生まれるのです。刑務所の中ですので、部屋に集まり、信仰告白をして、その人の個人教誨師が滴礼を授けてキリスト者になります。刑務所は教会ではないので、名簿を作り、それに名前を記録して保存しました。私から個人教誨を受けてける人々の中で一人の受刑者が、主イエス様を信じ、信仰告白をし、滴礼を受けて救われました。無期は、有期刑の最長期間を過ぎて、社会に出て良いと認められた方は出所できることでした。私もその時を楽しみにしていました。大阪新生教会赴任時は何とか岡山に通えたのですが、教誨師はボランティアなので、交通費は自己負担でした。広島に変わり、経済的にも大変になり、三ヶ月で辞任させて頂きました。その後、彼とは年賀状等のやりとりしかできずにいたところ、彼の家族から自死したとの知らせを受けました。でも彼が家族に個人教誨を受けて救われた喜びを伝え、家族がそれを喜んでいたらと知らされ、心の痛みが

和らいだことを思い出します。

広島の後、向島で牧師を続けている中で、尾道刑務支所からプロテスタントの教誨師が転任で辞任するので、後任になれないだろうかとの打診が有り、10年のブランクの後、教誨師の委嘱を受け、毎月、7、8人の受刑者に集合教誨説教をしています。教誨を受けることは受刑者の希望によるので、それだけの人がキリスト教の話を聞くことを求めて出席していることに、この働きの重さを感じさせられています。刑務所という国の公の機関で堂々と福音を伝える機会を主に与えられていることを感謝しつつ、一人でも多くの人が救われ、新しい人と成って、主と共に歩み出せることを願いつつ、キリスト教教誨師の働きを続けています。

腹話術人形トコちゃんのお里帰り

綿谷則子（春風ふわり）（向島）

去年の十月に私はトコちゃんのお里帰りに行ってきました。それは出張で松江を訪れた私の主人がたまたま礼拝を捧げた教会がトコちゃんのお母さん（松本まゆみさん）がおられた教会だったことが後で分かったからです。トコちゃんのお母さんは10年ほど前に病気で亡くなられ、その後、私がトコちゃんを譲り受けることとなりました。トコちゃんのお母さんのことはほとんど知らされていなかったのですが、この



導きにより、松江支部を立ち上げるきっかけを作られた春風エリサベツ（吉仲妙子）さんと一緒にトコちゃんのお里帰りが実現しました。

トコちゃんのお里（松江福音教会）に行くこと、トコちゃんを目にした皆さんが「わー、トコちゃん、懐かしい〜お帰りのなさい。」と声を掛けて下さいました。そして、初段に合格した時の

台本「求めなさい」を披露させて頂きました。この時は、トコちゃんが皆さんに再会できて喜んでるのを感じ、リラックスして演技することができました。松本光弘牧師からは、「お母さんが変わったら、トコちゃんの雰囲気も変わるかな?」と思いましたが、トコちゃんはトコちゃんのままです。妻と似ていましたよ。」と、言っていただき嬉しかったです。そしてトコちゃんの名前の由来は、娘の真由沙さんが小さい頃にトコトコ歩いていて、本当に「トコちゃん」と呼ばれていたからと、教えて下さいました。また、まゆみさんの従姉妹の方がおられて、「お母さんを亡くしたトコちゃんが、こうして引き継がれて、今も活躍している姿に、神様の大きな愛を感じまし

た。」と言われました。

私はこのトコちゃんのお里帰りでトコちゃんがこの教会のみなさんにとても愛されていたこと、まゆみさんがトコちゃんと生き生きと活躍されていたことを知ることができました。

また、この訪問により、休会寸前だった松江支部が新たに活動することとなり、本当に感謝でした。

戦争捕虜和解の働き イギリス訪問

溝淵 Esther 尚子（向島）

二〇二三年十一月、アガペ・ワールド（AW）代表の恵子ホームズさんと小菅啓子さんが向島キリスト教会の祈禱会で、戦時中に向島におられた捕虜のことやアガペの和解と心の癒しのお働きについて、お話ししてくださいました。そして、神様のお計らいで、今年二〇二三年六月二十九日から七月六日までアガペワールドの「心の癒しと和解」の働きでイギリスに行き、さまざまな経験ができたことを主イエスさまに感謝します。

二〇二三年六月三十日、日本大使館でのレセプションに参加した時、第二次世界大戦中、日本で過ごしていた捕虜の方たちがほとんどおられないことに気がきました。天国から、僕たちが生きていたことを忘れないでほしい。覚えていてもらいたいです。と言われているような気がしました。私は、恵



ロンドン日本大使館で恵子ホームズさんと

子ホームズさんが連れてこられた元捕虜だった方々と一緒に過ごし。戦時中に捕虜と一緒に生きていた人たちから、直接当時の様子をお聞きした最後の世代かもしれません。その当日、杖をつけて、足を引きずりながら、自分の力でやっと日本大使館のたどりついた英国軍人だったおじいちゃんが、愛おしくなつて、一緒に過ごしました。

AW代表の恵子ホームズさんは、飛行機事故でご主人のポールさんをなくされました。絶望の中で、「私の恵みは、あなたに十分である。」「私と一緒に働こう。」という神様の語りかけを聞かれました。

戦時中日本軍に捕まえられ、泰緬鉄道や東南アジアの各地域で捕虜として働かされ、栄養失調、伝染病、暴力などで苦しみ、命を失った大勢の捕虜がおられました。生き残った方々が、地

獄船で本人たちの意思とは関係なく、日本に連れて来られて、日本の炭坑や造船所で働かされました。苦しい中、生き抜いて戦後イギリスに帰国した方々が全国捕虜大会という軍人の同窓会に集まっておられました。そこは、戦友を失った悲しみ、敵国だった日本兵から受けた人間の尊厳を奪うような屈辱的で暴力的な扱いで、戦後になっても戦争の時の痛みや苦しみが抜け出せずに、心が憎しみと怒りでいっぱいの人元捕虜の方々がおられました。

恵子さんに神様は、「私が恵子を愛しているように、戦争で傷ついた彼らのことも愛している、神様の愛を伝えてほしい。」と語られ、恵子ホームズさんを「Let's Go」「さあ、行こう。」と促し、その暗く重たい地獄の苦しみを経験し、戦後も心に深い傷を持ち続ける元POW（戦争捕虜）達がおられる場所に恵子さんは、入って行かれました。神様は、癒しと和解の働きを最愛のご主人、ポールさんを失った深い悲しみと喪失感を持つイギリス在住の恵子ホームズさんを通して始められました。

向島の兼吉には第二次世界大戦中、捕虜収容所があり、東南アジアで日本軍の捕虜になり、日本に連れて来られたイギリス人捕虜が100名おられ、そのうち23名が向島で亡くなられました。また、因島には木造の捕虜収容所がありました。それぞれ、近くに造船所があり、戦時中そこでPOWの方々が働

いておられました。因島では、学徒動員の小学生たちが同じ場所で働いていました。捕虜たちは、金属を鋳型に流し込んで固める仕事をしていました。当時、捕虜には物をやってはいけない、もらってはいけない、口をきいてはいけない、という規則がありました。だが、好奇心旺盛な子供たちは、家からもらってきたたばこをこっそりやり、捕虜のお兄さんはおもちゃを作ってくれたんだそうです。また、ボクシングをする格好をして見せてくれたことや、学徒動員の子供が、捕虜をからかって、「You are all monkeys」というと、トム・ジャクソンさんというハンサムな捕虜のお兄さんが怒って、ほうきを振り上げたことを学徒動員で働いていた方々に聞きました。

因島で働いていた捕虜のトムさんは、一九九八年にAWの恵子ホームズさんと元POWとご家族約25名とふたたび、因島を訪れ、トムさんをはからかった小学生だった岡田哲郎さんと50年以上もたつて再会しました、その場面に私も一緒にいて、感動して心が震えましました。テレンス・ケリーさんという因島の捕虜の方もAWのグループの中におられました。向島キリスト教会の和解礼拝に向かう車の中で、日本語で挨拶をしたということ、日本語のあいさつ文を見せてくださり、これでいいかどうか尋ねたり、おしゃれな方で首に巻いたスカーフがきれいに結んであるかどうか、私に聞いてこられました。礼拝の中で英語で証しをされる前

に、日本語で上手に挨拶されていました。その頃は、この方の著書「地獄船で広島へ」を赤レンガの会で翻訳する時、私も関わるようになることは、夢にも思ってもいませんでした。

また、戦時中は、向島の捕虜収容所（元織物工場、戦後向島紡績）から住田パンの前を造船所に通きに行く捕虜が整列して更新しているのを見たそうです。背が高く、見たこともない国の方たちだったので怖かったそうです。ある夜、看守が来て捕虜が病気になるので卵をもらいに来られたそうです。食料が乏しかったようで、日本の人が食べ残したものを洗って食べたこと、日本人がゴボウを食べさせたところ、根っこを食べさせた。と言っていたこと、造船所の前で捕虜が殴られていたのを見たことなど、捕虜がいた時代とともに生きて来た向島町の方々からお聞きしたことがあります。

なお、捕虜収容所跡に白英友好モニュメント（向島で天に召されたPOWの方々のネームプレート）が二〇〇二年に、設置され、現在は向島町兼吉にあるスーパードラッグひまわり向島モーテル店の横に移設されています。

私が恵子ホームズさんと向島で初めてお会いしたのは一九九八年でした。

私の父は、私が小学生の頃から母や私たち家族がいたにもかかわらず職場で恋愛し、中学生の頃から父親があまり家に帰って来なくなり、心の痛みや苦しみを、寂しさを持った兄や母

は、私に対して暴力的でした。父は私たちに無関心でした。AWの方々と出会う中で、私のそんな辛く、悲しくて、とても孤独な経験がPOWが敵国だった日本軍人から殴られ、苦しんでいた姿、さげすまれていた姿と重なり、共感し、憐みの心が湧いてきました。主は、どんなに苦しい経験も益としてくださいます。

AWの方々に会う前は、あくせくと病院で働いてばかりいて、気持ちのゆとりもなく、自暴自棄になっていました。そんな中で、「神様、本当におられるんだしたら直接私に語りかけてください。」と祈っていたら、一九九九年にイギリスに行く機会を神様から与えられ、ケンジントン・テンプルでの和解礼拝の中で、デレクさんが、日本人に銃剣で足を刺され、二度とまともに歩けなくなったにもかかわらず、「日本人を赦します。」と言ったさつた証を聞いたとき、涙が止まらず、これは人にはできないこと。神様がおられ、今も生きて働いておられることがわかり、一緒に行った方々に祈っていたら、一緒にクリスチャンになりました。（Estherというクリスチャンネームは恵子ホームズさんがつけて下さいました。）

その後、二〇〇七年十月七日には、恵子ホームズさんが、イギリスから大切なお客さまを連れて来てくださいました。

神戸市の工場で日本軍の捕虜として

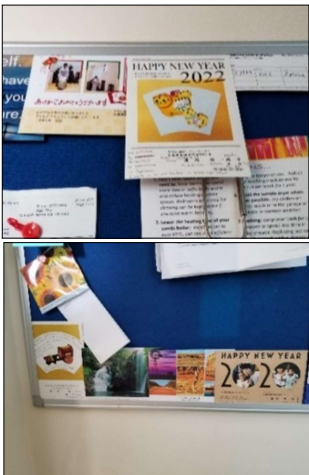


御幸小学校で(2007)

働かされていたデニスさん、娘のデニスさん、ひ孫のリオニイさんです。リオニイさんは、当時、四年生10歳でした。その年に来られた元捕虜とご家族は、二〇〇七年十月十八日、向島にある御幸小学校を訪問し、小学生と一緒に和太鼓を叩いたり、お茶でもてなしていたりなど、日本の文化体験をしました。イギリスの小学生だったリオニイさんと交流しました。イギリスのリオニイさんの学校の先生は、リオニイさんに学校に行くことよりも日本に行っ

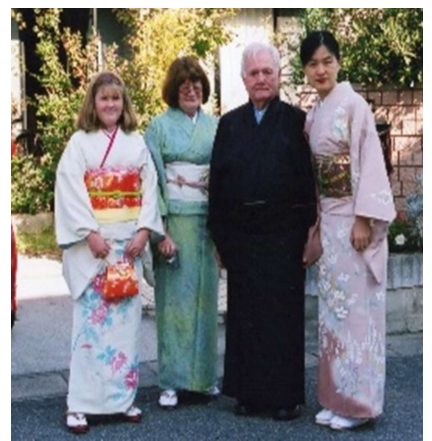


訪日の方々と (2007)



二〇〇七年に日本に来られて以来、デニスさんは10歳で天に召されるまで、毎年、必ず主人と私宛にクリスマスカードを送り続けてくださっていました。

て、実際に日本人たちと会っていろんな経験をしてくることが大切だと、来ることを迷っていたリオニイさんの背中を押してくださいました。私の家にホームステイしたデニスさん、デニスズさん、リオニイさんに、着物を着ていただいて、家で作った巻きずしと一緒に食べました。次の日は自宅ですべて英語の教室の子供たちやそのお母さんたちを家に呼んで、みんなで楽しく遊びました。



訪日の方々と(2007)

娘のデニスズさんは日本から帰国後、イエスさまを信じ救われたそうです。それを聞いて、嬉しくなりました。インターネットが発達した今時のことなので、二〇〇七年にお会いしてから、ご家族とつながっていて、日常の変化を知ることができ、身近に感じていました。リオニイさんは、看護師になりました。若い世代のために働く牧師と結婚され一児の母になっていました。リオニイさんと初めてお会いした時、私も看護師の仕事をしていました。だから、私の影響かもしれないと、喜んでいました。いつか、イギリスでデニスさんご家族にお会いできるよう神様に祈り続けていました。しかし、実際に会うとなると、遠いし時間もかかりました。それぞれの毎日の生活もあります。今回、「主のみ心でしたら、イギリスで会わせてください」と祈り続けました。



リオニイさんご家族と再会(2023)

今回、イギリスを訪問する前に、息子ホームズさんにお伝えすると、ホームズさんは、私の心の願いを聞いて、日程を調整し時間を空けてくださり、リオニイさんのおばあちゃん、デニスズさんが住むコツウオールズの家で、再会することができました。優しく、明るく、愛情深いデニスさんがいない寂しさを感じるとともに、16年ぶりにデニスズさん、リオニイさんと再会でき、とても懐かしく、嬉しく思いました。神様のご配慮に感謝しました。そして、デニスさんに目元がよく似た玄孫(やしやご)の2歳になるルナちゃんとの出会いを喜びました。以前お会いした時には、10歳の小学生だったリオニイさんは、26歳になっていました。リオニイさんは、子供のころに日本に来たこと、尾道に来て交流したことをよく覚えておられました。お家の掲示板に、私が日本から送った年賀状が貼られていたので、驚き、嬉しくなりました。ルナちゃんとは、日本から持って行った木の自動車のおもちゃと一緒に遊びました。おもつが取れていない2歳の女の子、よくお話しするおしゃまなかわいいお子さんでした。西洋の子供だからでしょうか、同じ年の日本の子どもよりひとまわり大きい感じがしました。おばあちゃんのウェインさんの家で、娘に語りかけたり、しつけたり、おもつを替えたり、ルナちゃんのお母として子育てしている様子を見ることができました。次の子を授かっていたリオニイさんは、赤ちゃんのお人形を与えて、まだおもつが取れていな



クレアさんご夫婦と再会

イルナちゃんにお世話をさせていたことには感心しました。今頃は、もうお姉ちゃんになっていてのことでしょう。その日は、とても思い出深い、神様の愛に満たされた特別な一日でした。
パラダイスランチの時には、恵子さんがお食事を準備されて捕虜関係者をお家に招いて、交流されていました。私たちが今回恵子さんの家にホームステイした時にも、ゲストの方々が来られました。その中に、クレアさんというご婦人がおられて、父親のエドワードさんが四国の善通寺で捕虜でした。二〇二三年に東京で、今回イギリスに行った人たちと同窓会をシオン・フルゴスペルチャーチの田端良恵牧師が開いてくださった時に、クレアさんとご主人のデイビッドさんに再会しました。その後、日本各地を回られ、お父さんが捕虜として収容されていた善通寺跡の中学校で交流されました。後日、広島に来られた時に、広島市平和祈念館をご案内しました。原爆のことや被爆者の惨状を知り、こんなに悲しい戦争は、二度とあつてはならない。と深い悲しみと心の痛みで、目を潤ませておられました。

家庭が崩壊し、孤独でみじめな生き方をしてきた私が、A.Wの働きを通して、イエスさまに出会い、人生が光の方向に変えられていきました。私の人生をここまで導いて下さった主イエス・キリストに感謝します。
主人との関係や、家族の救いなどまだ、たくさん課題はあります。しかし、忍耐強く祈り続けて行こうと思っています。

教会短信

小豆島バプテスト教会

二〇二三年度は井上先生・中村先生・福田先生（日本基督教団内海教会）のご協力を得て牧師による礼拝を月一回計画し、出席者7名十乳児1名で出席です。

今年度も多くの恵みを頂きました。

○出席者からのパワー

礼拝中の乳児の声に「一緒に讚美歌を歌いよるな」と喜び、表情や動きの一つひとつにみんなに笑顔が広がります。幼子から癒しとパワーをもらっています。

また、長らく入院していた姉妹が十月から礼拝に出席。真っ直ぐに神様に向かう姿に心を新たにさせられました。

○朗読劇「手紙」〜分際〜の上演

十月二日、当教会の責任役員であつ

た伊藤静野姉と伊藤戒三牧師の残された手紙を基にした朗読劇が上演されました。会堂いっぱい集まった人達、演じられる言葉、バックに流れるピアノ。神様と静野姉が嬉しそうにそばで見ているように感じました。

○他教会の人達との交わり

十月十九日、ベネディクト・カレブ牧師（奈良ライブチャーチ）の情熱溢れる説教や、ご夫妻の息の合った賛美の歌声に心がはまりました。
クリスマス礼拝は内海教会と合同で行い、豊島教会からも参加がありました。所属は違ってもイエス様の誕生を一緒に喜びました。

○三月には、長棟夫妻の転会式、依ちゃんの子供祝福が行われる予定です。
(庫本由美子)

向島キリスト教会

一月一日 二〇二三年は第一聖日が元旦でしたので元旦聖日礼拝を守りました。

二月五日 バプテストデーの礼拝を守り、礼拝献金4万8千円を神学校に献げました。

四月七日 受苦日礼拝が6名が出席して行われました。

四月九日 イースター礼拝に21名が出席、今年もコロナウイルスの感染防止の為、卵探しと愛餐会はできませんでしたが、多くの方々と主イエス様の御復活をお祝いできました。

五月十四日 「母の日」ですが、こ

どもの日、父の日と合わせ「みんなの日」として礼拝を守り。みんなにCSからプレゼントがありました。

五月十六日 例年通りの日程で定期教会総会が行われました。現在会員22名の内14名出席で総会が成立し、全ての議案が承認、可決されました。

五月二十日 春風ふわり（綿谷則子姉）の腹話術の芸名披露・感謝の会が行われました。



春風ふわり芸名披露

五月二十八日 聖霊降臨記念日礼拝に23名が出席、全世界の教会の誕生日を祝いました。

六月四日、五月八日より新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染現状の判断から、この日から礼拝形式をコロナ感染対策以前に戻しました。

六月十一日 部会論壇交換が行われ、日ノ本教会の井上正之牧師が説教されました。大谷師は小豆島教会で説教でした。

七月十三〜十五日 大谷牧師は同盟総会で、総会牧師の奉仕をしました。

九月十八日 部会秋のレクレーションが東広島市憩いの森公園で行われ向島から7名が参加しました。

十月八日 総会決議に基づき神学

校を覚えて献げられた礼拝献金4万2千円を神学校に送りました。

十月三十一日 アガペー・ワールド主宰の恵子ホームズさんの講演があり、講師、日本代表の小菅啓子さん、徳島恵教会の若松伝道師、POW(連合軍捕虜)研究会の小林兄を迎え、教会から9名が出席しました。



恵子ホームズ姉

十月三十一日 向島キリスト教会女性会のBWA世界祈禱日集会が行われました。

十一月三日 部会教会学校研修会が向島で行われ、講師の吉備キリスト教会齊藤隆二牧師、同教会青年4名、向島7名、瀬戸田2名、広島4名が参加し、良き学びと交わりの時を持ちました。

十一月五日 女性例会会をBWA世界祈禱日集会として行いました。この会の為に2万2千円が献げられ、全国女性会に送金しました。

十一月二十五日 CS遠足が岡山農業公園ドイツの森で行われ、青年3名を含め12名が参加しました。

十二月六日 大谷牧師が教誨師をしている尾道刑務支所所有井作業所でクリスマス会が行われ、6名が参加しました。

十二月十六日 バイオリンとチェロ



CS遠足 岡山ドイツの森



向島 クリスマスコンサート

によるクリスマスコンサートが行われ、教会員、求道者、友人、近所の方が30名が参加し、素晴らしい生演奏を聴きながら主の降誕を祝いました。

十一月十七日 「街角クリスマスキャロル」が尾道のホテル前を会場に行われ、向島から7名、石塚師、尾道カトリック、吉和、尾道西教会の方々との人々に主イエス御降誕の喜びを伝え



尾道 街角のクリスマスキャロル

ました。

十二月二十四日 クリスマス礼拝には31名が出席、CS礼拝には今年度初めて生徒が与えられました。祝会にはその子供達も加わり、様々な出し物があり、楽しい時を持ちました。この日はイブ礼拝も行われ、静かで荘厳な雰囲気で行われ、主イエスの御降誕を感じ



向島 クリスマス祝会

謝し、皆で楽しくお祝いしました。(大谷孝志)

土生バプテスト教会 ・重井集会所

一月八日(日) 新年礼拝「あなたのパンを水の上に流すがよい」コヘレトの言葉 11・1~10

三月十七日(金) 田中良子死去 召天85歳

五月十四日(日) 土生バプテスト教会 教会総会

六月十一日(日) 部会交換講壇

土生〜山田三千江、瀬戸田〜林原弘「仕えるということ」マルコによる

福音書1・29~31

八月三日(木) 重井幼稚園平和礼拝

八月四月(金) 田熊園平和礼拝

八月六日(日) 土生バプテスト教会

平和礼拝

九月四日(月) 鈴木善樹兄召天。



土生 鈴木善樹兄納骨式



田熊 CSクリスマス



重井幼稚園 クリスマス

十一月十二日(日) 納骨式
十二月十五日(金)
重井幼稚園クリスマス礼拝
十二月二十一日(木)
田熊学園クリスマス礼拝
十二月二十四(日)
土生バプテスト教会クリスマス礼拝
十二月二十六日(火)田熊幼稚園、
こども園の卒園生 小学生のクリスマス
マス (林原弘)

瀬戸田バプテスト教会

瀬戸田教会

二〇二三年度、教会に与えられた大きな3つの励ましがありません。一つ目は、神学校を卒業された山田三千江さんが、教師としてではなく、遠方にもありながらも、教会籍を移され、瀬戸田の教会員として、島の教会を支えてくれていることです。時折来島されて教会と幼稚園の働きに関わってくれています。



瀬戸田 クリスマス



ハンドベル



原集会

いつもそれぞれが覚えて祈っています。が、実際に顔と顔を見ながらともに礼拝を捧げられることで、瀬戸田の方々がとても喜んでいきます。

そして、三つ目、これは、とても画期的なこと、関東学院六浦高等学校の学生たちが16名も、盛夏の中、教会を訪問し、教会墓地、幼稚園園庭、原の畑をきれいにしてくれたことです。かつてのミッションキヤラバンを彷彿させてくれるものでした。関東にあつて、島しょ部の教会を覚えて、実際に訪ねて来てくれるという行動は、本当に大きな励ましです。この報告は、JB12月号に記載されていますのでぜひ合わせてご覧下さい。

現在、高齢のため、自宅や施設で療養されている教会員も多く、それぞれの礼拝や集会は、3名から5名です。しかし、主イエスさまが共にいてくださること、その場に集えなくても、礼拝の時を覚えて同時に祈りの時をもつ

今年度、第一金曜日の祈禱会、第三金曜日の礼拝と、月2回の集会を、生口島の南地域の方々と行ってきました。祈禱会は、常時3名のところ、お一人が長く入院されていたので、二人の時間が多くなりました。それでも、聖書をじっくり読み、黙想する充実した時間

原礼拝

ている先輩たちと、主にあつてつながっていることを忘れず、それぞれの礼拝が大切にささげられています。しばらく離れている方、新しく招かれる方が、今日来るか、明日来るかと、祈りつつ期待しています。何よりも、長い歴史を共に歩んできている博愛幼稚園で日々礼拝を捧げていることも、先生方、折々に祈りを合わせている保護者の方々が信仰に導かれること、礼拝に招かれることをあきらめずに祈って働きかけていきたいです。

となっております。礼拝には、時折、瀬戸田で働いている他教会の方も集ってくださり、良い交わりも与えられています。アドベントに入ると、南地域の卒園児の保護者が活動しているグループの方々が集い、クリスマスキャロルをハンドベルで練習しています。今は閉校になっている南小学校の中庭で毎年行われるクリスマス・マルシェのイベントの中で、奏でていきます。そのようなつながり、近隣の方々との交わりを大切に、原集会所での時を過ごしています。

中島子どもクリスマス

二〇二三年十二月十日、中島集会所でもクリスマスが4年ぶりに開催されました。この子どもクリスマスに関して、少し、分かち合いをさせていただきます。

私が就任した当初、これまでの慣例として、瀬戸田と中島の合同礼拝が行われていました。瀬戸田の礼拝を休会にして、車に便乗し、中島集会所に向かい、中島のみなさまとともに礼拝を捧げていました。瀬戸田から、7人ほどが行くので、普段少ない人数で礼拝している中島の方々にとって、にぎやかな励まされる時と喜ばれていました。それは、十月に行われていました。礼拝後のお茶の会の時、中島の初穂と言われているクリスマスチャン3姉妹の内のお一人が、「しばらくやってないんだけど、こどもたちのためのクリスマス



中島 子どもクリスマス (コロナ前)



中島 子どもクリスマス (2023)

会、またやりたいわ。」と切実に話されていたので、その1年目には、クリスマスに近い土曜日に、もう一度、瀬戸田の有志で集い、子どもクリスマスとして、集会所に子どもたちを招いての礼拝と交わりの時を再開しました。ただ、日帰りの移動は結構負担になるということから、合同礼拝を十二月にして、礼拝後にその会をするようにしたら、1度の往復でできるのではと、合同礼拝と子どもクリスマスを一緒にやることにしました。昨年と同じく、瀬戸田から、クリスマスのスライドやプレゼントなど、たくさん荷物運んでの移動。集会所は、島中の子どもたちが来ているのかというほど、超満員。

楽しくにぎやかな時をもてたことを感謝しました。その形で、次の年も行いました。しかし、二つの大きな理由でその会の継続が難しくなりました。

一つは、瀬戸田の子ども礼拝が始まっていた、こどもたちが少しずつ増えて、日曜を楽しみに集まって来ていたことです。「来週、みんなで違う島に行くので、礼拝休みなんだ。」と、こどもたちの足を止めることはできません。なんとか、土曜日にいけないかと模索している時に、もう一つの理由が生じました。新型コロナウイルスの感染が増えたことでした。密なる集会、しかも他県(広島県)から愛媛県の中島の人たちに迷惑がかかる可能性があったからです。当初は、島で感染者がたら大騒ぎになる雰囲気だったので、

それから3年、今年4年ぶりに子どもクリスマスが再開しました。きっかけは、礼拝に来ている若いお母さん世代の一言です。「子どもクリスマス、もうやらないんですか? やりましょう、私たちお手伝いしますよ。」と。なんと頼もしい一言でしょうか。今年は、

このように現地スタッフが与えられたことで、ちらし配りやポスター貼り、部屋の飾りつけや、プレゼントのお菓子の準備まで、お任せ出来ました。当日も、奏楽から、ハンドベルの指導、ゲームのアシスタント、そして、その方の友人で介護施設職員の方が、サンタクロースもしてくださいました。こどもたちに、教会で祝うクリスマスを体験してほしいという気持ちと、島にあつて、楽しい集いを折々に経験させてあげたいという積極的な願いを持つたお心に背中を押してもらっての、子どもクリスマスでした。0歳児から6年生まで21名、大人10名の参加でした。中島で暮らすこどもたち、そして保護者の方々とお会いできたことが、何よりもうれしいことでした。私自身、月2回の通いという限界はありますが、中島で生きるお一人お一人とのつながりを神さまが年ごとに広げ、深めてくださっていることを実感しています。

安下庄集會

(石塚多美子)

五年目に入った安下庄集會は、レギュラー出席者二名を中心に、帰省などで時折出席される方々と共に、ほとんどの主口で礼拝を守ることができました。瀬戸田教会との講壇交換は、残念ながら実現できませんでしたが、七月から

は、毎月第二主日に中島集会所へ石塚先生が出かけられるため、瀬戸田教会とリモートで結んで合同礼拝を行うようになりました。

十二月二十四日には、昨年に引き続きキヤンドルサービスを行いました。SNSとロコミを中心に告知しました。が、昨年を上回る10名の出席者により、祝福された礼拝を守ることができました。今後も続けて行きたいと願っています。これからの安下庄集会のためにぜひお祈りください。

なお、伝道師の中川純良が四月に教師認定されました。現在、按手礼会議に向けて準備中ですが、平日は仕事をしながらですので、かなりゆつくりな進捗状況です。今後の準備のためにもお祈りいただければ幸いです。

(中川純良)



安下庄 花咲く郷 祈りの家

広島平和キリスト教会

主の御名をほめたたえます。広島平和キリスト教会を覚えて祈って下さった全ての信者、教会に感謝し、主の豊かな祝福を祈っています。広島平和キリスト教会では、礼拝を第一礼拝は十時から、第二礼拝は十一時からと基本



広島 クリスマス祝会



広島 夏の楽しみ会

的に二回に分けていますが、役員会がある第二週や、第五週などを合同礼拝にし、十一時から礼拝をします。第五週は讚美礼拝にし、讚美を多めにしています。水曜日の午後七時と木曜日の午前十時から、聖書に親しむ会をやっています。箴言が終わったところで、次回から、ヨハネによる福音書を学びます。

子ども達の中で、二人が奏楽のお手伝い出来るようになり、礼拝は更に賑やかになって来ました。毎週ではないが、水曜日には、聖書に興味がある新しいお客さんが来ています。月に一回のカフェタイム(女性会)も続ける

ことができ、主に感謝します。施設に過すようになった教会員もいますので、施設の訪問をもしています。共に住んでいるミャンマーの2家族が年に一回来られ一緒に礼拝を守っています。まだクリスチャンの信者は少ないが最近、ミャンマーからの技能実習生が増え、教会に来られることもあります。八月に一人の教会員が天に召され、寂しさに包まれています。しかし、教会に残して下さった献げものに、励まされ助けられています。いつも最善をして下さった主に感謝します。

(トウン・カン・クップ)

御言葉を宣べ伝えなさい (Ⅱ テモテ 4:2)

作曲：Tuang Khan Khup

♩ = 75

D A G A7 D D A

み こと ば を の べ

G A7 D G F#m Bm Em7

つ た え な さ い お り が 良 く て も わ る く て も は げ み な

A A7 G A F#m G A7

さ い と が め い ま し め は げ ま し な

D G F#m Bm Em7 A

さ い に ん た い つ よ く つ よ く じ ゅ ぶ ん に お し

G A7 D D A G A7 D

え る の で す

イエス様は生きる道

♩ = 90 作詞・曲: Tuang Khan Khup

F B \flat /F C/E B \flat /D F/C

なんのために 生まれて 来たのか なに
生きるのに つかれて いますか 将来

B \flat Am7 Gm7 Csus4 C7

をして 生きていけば 良いのか なに
のこと しんばいして いますか あな

F C/E Dm7 Dm7/C

をして おもう 通りに 行かないと 死んだ
たの こと すべてを イエス さまに おま

Gm7 |Am7 Gm7/B \flat Am7 Gm7 C7 F F7

ほうがらくだと おぼつ しましう にんげんはよわい じつ
かせしな

B \flat F

は らく に 生きるみちがある それ

F C C7

は 主イエスのみち イエス

F C/E Dm7 Dm7/C Gm7 C

さまはみちであり真理であり いのちであり イエス

イエス様は生きる道

36 F C/E Dm7 Dm7/C

さまを信じるものはだれでも つみ

40 Gm7 Am7 B \flat C F

がゆるされ すぐわ れる

48 2. C F C/E Dm7 Dm7/C

さい あなたの おもには らくになり つか

50 Gm7 Am7 B \flat C F

れはいやされ ちからがわいて 来る イエス

56 F C/E Dm7 Dm7/C Gm7 C

さまはみちであり真理であり いのちであり イエス

62 F C/E Dm7 Dm7/C

さまを信じるものはだれでも つみ

66 Gm7 Am7 B \flat C F

がゆるされ すぐわ れる

© 2023. 11 Tuang Khan Khup

- 2 -

「内海で生まれた讃美集I」をご入用の方は向島キリスト教会にご連絡下さい。

伴奏譜や参考音源は下記HPへ。

<http://www.333.ecnet.jp/naikai/praisebook/index.html>

J B掲載のYoutube動画は、

”Watasan’s Praise Channel”へ。

<https://www.youtube.com/channel/UCGuH9sh16urEvZ4XAxzOPHg>



内海で生まれた讃美

今回紹介する「内海で生まれた讃美」は、クップ師が作詞・作曲された讃美2曲です。

「御言葉を宣べ伝えなさい」は、二〇三年度の同盟及び部会の主題聖句です。

一曲目は「イエス様は生きる道」です。

ぜひ、一緒に賛美しましょう。

(綿谷 剛)

【編集後記】

新型コロナウイルス感染症が5類となり、教会生活の日常が徐々に戻ってきました。一月に行われた信徒研修会はリモート講演でしたが、十一月の教会学校教師研修会は対面で行うことができました。部会だからこそ協力して集会を持ち恵みを分かち合えることに感謝します。

今回も、盛りだくさんの研修会の感想や証しを掲載することができました。原稿を寄せて下さった皆さんに感謝致します。

ご愛読いただいている皆さまには、これからも内海部会の様子をお伝えしていきたいと思っております。ぜひ内海での働きのために祈り下さい。

(編集委員 大谷孝志)

石塚多美子、綿谷剛



福音丸伝道継続事業献金感謝

2022年度 献金感謝一覧

団体	教会 (内海以外)	教会 (内海)	個人	個人
厚木幼稚園	厚木教会	小豆島教会	荒川貞雄	人見富美子
学法 関東学院	帯広伝道所	瀬戸田教会	蟹川京子	山口正人
関東学院六浦・小学校	尚綱教会	向島教会	柴田豊子	横瀬実
捜真小学校	山下教会		関田明美	山崎厚子
捜真女学校中・高	大阪神愛教会		田頭さやか	溝淵尚子
	杉並中通教会		丹野真人	水川孝子
	木津教会		中本仁一	南沢満雄
	曾根教会		野村篤子	戸田幸子
	奈良佐保教会		松平季子	村上典子
	西岡本教会		丸山康	
	日ノ本教会		三浦花子	
5団体	11教会	3教会	20名	合計:39

内海伝道団会計報告・予算

項目	2022予算	2022決算	2023予算
収入			
1. 教会・協力団体	250,000	288,000	250,000
2. 個人	200,000	233,000	200,000
3. 利子収入		6	
4. 前年度繰越金	1,377,268	1,221,378	1,500,977
収入計	1,827,268	1,898,274	1,950,977
支出			
1. 開拓伝道応援費	250,000	250,000	250,000
2. 諸教会応援費	50,000	50,000	100,000
3. 福音丸新報発行費	30,000	29,780	30,000
4. 福音丸新報送料他経費	38,000	38,479	38,000
5. 振替手数料	5,000	5,113	5,000
6. 事務費	10,000	3,905	5,000
7. 活動費	50,000	0	50,000
8. ミモザ会費	20,000	20,000	20,000
9. 讚美集発行費	0	0	0
10. 予備費	1,374,268	0	100,000
支出計	1,827,268	397,297	598,000
11. 次年度繰越金	0	1,500,977	1,352,977
合計	1,827,268	1,898,274	1,950,977

感謝とお願い

瀬戸内海伝道団による福音丸伝道継続事業の為のお祈りと貴重な献金を感謝申し上げます。

内海部会も年々縮小化する傾向にありますが、皆様のお祈りとお支えにより、22年度も伝道団として各教会に50,000円を助成金として送ることができました。

皆様の心からなるお祈りと献金により、内海部会諸教会が御業の一助としての活動ができますことを心より感謝申し上げます。

振込用紙を同封致します。今年もご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

瀬戸内海伝道団代表 大谷孝志
 ☆献金の送付は、同封の郵便為替用紙または、「瀬戸内海伝道団」口座番号 01340-3-11913にお願い致します。

開拓応援伝道費は各教会の開拓伝道費の補助
 諸教会応援費は中島集会所の補助

県	教会名	郵便番号	住所	電話	牧師・伝道師
香川	小豆島バプテスト教会	761-4121	小豆郡土庄町淵崎甲2071-22	0879-62-2053	井上 正之(代)
広島	向島キリスト教会	722-0073	尾道市向島町16058-22	0848-44-2762	大谷 孝志
広島	土生バプテスト教会	722-2323	尾道市因島土生町1602-1	0845-22-0593	林原 弘
広島	土生バプテスト教会 重井集会所	722-2102	尾道市因島重井町3055	0845-25-0134	(兼)林原 弘
広島	瀬戸田バプテスト教会	722-2411	尾道市瀬戸田町瀬戸田378-1	0845-27-0173	石塚 多美子
愛媛	瀬戸田バプテスト教会 中島集会所	791-4501	松山市中島大浦2107-10	-	(兼)石塚 多美子
山口	瀬戸田バプテスト教会 安下庄集會	-	-	-	中川 純良
広島	広島平和キリスト教会	731-0101	広島市安佐南区八木3-5-17-10	082-872-1150	トッソ・カン・クッソ